

## 学校経営推進費 評価報告書（2年目）

標記について、下記のとおり提出します。

## 1. 事業計画の概要

実施課程名	支援学校 生活課程
取り組む課題	児童・生徒の自立支援
評価指標	・児童・生徒・保護者の学校満足度の向上 ・地域連携と外部への情報の発信
計画名	「枚方支援学校 むげん（夢現）ファーム ～ 根っこワーク・プロジェクト」

## 2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	3 小学部、中学部、高等部間の連携を強め、卒業後の社会自立をみずえたキャリア教育を柱に、一貫性のある教育を実践する。 (2) 児童・生徒一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、学校周辺地域と連携を深め、知的障がい教育の充実・発展を図る。
事業目標	<p>本事業を活用し「高床式砂栽培システム」を導入することで、本校児童生徒の社会自立に向けた支援を、より豊かなものとする。「むげん（夢現）ファーム」を中心とした活動で学校を活性化し、学校全体をつなぐ新たな教育活動を創造する。プロジェクト名にある「夢を実現する菜園」や「野菜の栽培を通じて、自分たちの仕事で社会に貢献する」をテーマに、地域に根差した児童生徒の夢や希望を育む活動を展開していきたいと考える。</p> <p>本計画では支援学校棟2階ルーフトラスに、ビニールハウスを設置。その内部の高床式砂栽培システムで、葉物野菜（漬菜類）を中心とした様々な農作物の生育を行う。ビニールハウス内で生育を行なうことで、安心安全な野菜生産を年間を通じて行うことができる。砂栽培は従来の路地での農作物生産に比べ連作被害などが起こりにくく、砂は定期的に洗浄すれば繰り返し使用することができる。また、作業工程がシステムティックに構成されているため、様々な障がい特性のある児童生徒にとっても作業内容がわかりやすく、見通しを持って取り組みやすい。本システムを導入することにより、以下の効果を期待したい。</p> <p><b>ステップ①</b>：高等部の園芸や職業コース選択者を中心に、生育に関する一連の活動を経験し、技術を身につける。身近な環境で生育状況を観察し自分たちで生産管理を行うことで、責任をもって仕事をやりとげる粘り強い心を育成する。</p> <p><b>ステップ②</b>：作業に習熟した高等部生徒は、中学部や小学部の児童生徒に対し作業の指導や助言を行う。自分自身が身につけた技術を伝達することで、作業に対する姿勢・技術を、より確かなものとする。異年齢間の活動を通じ、積極的に自分の役割を果たす気持ちを育成する。</p> <p><b>ステップ③</b>：学校内で職員や保護者に向けて販売活動を行う。自分たちが生産したものを販売することにより、自分の仕事が必要とされることを実感し自己有用感を高める。</p> <p><b>ステップ④</b>：校外での販売（駅前JA朝市など）で一般の方々に向けて販売を定期的に行う。一般の販路にのる農作物を生産するために、より徹底した生産管理を行い、生産チームで共通の目標をもち、目標達成に向けて努力する協働力を養う。同時に、販売活動を行う中で、地域へ向けて支援教育における職業教育の意義や障がい者への理解・啓発について発信する。また、諸活動についてはリアルタイムでブログ等で情報発信を行い、活動についての即時評価を児童生徒・保護者・教職員・関係者全員で共有する。</p>
整備した 設備・物品	<p>設備：高床式砂栽培システム（4）、ビニールハウス（4）、灌水装置（1）、ガーデン造作工事（電源設置工事+水道設置工事）</p> <p>物品：育苗箱 ブラック（1セット:10枚単位）3セット、ペーパーポット（1箱）、PH測定器1個、EC測定器1個、ペローズピペット 5個、測量ビーカー5個、デジタル式自動はかり1個、ピンセット5個、プラバケツ5個、キャリングホースリール（30mホース）1個、採集コンテナ（3個組）2セット、トンボジョーロ5個、ハサミ8個</p>
取組みの 主担・実施者	首席、キャリアPTメンバー、高等部 職業コース担当者、および小学部・中学部交流担当者
本年度の 取組内容	5月：地域の外部講師を招き、高等部職業コース履修生徒による今年度2回目の播種作業、以降生育管理を実施。6月：中学部生徒による1回目作物（チンゲンサイ）の収穫。高等部職業コース履修生徒による整地・2回目作物の定植。8月：第3回目の播種。9月：第3回目の定植作業。小学部児童と高等部職業コース履修生徒による共同作業（週3回程度、内容：水やり等の管理作業を実施）。10月：高等部職業コース履修生徒によるチンゲン菜の収穫、JA北河内村野駅前ATM前スペースにて、約67セットを地域の方々を対象に販売。11月：4回目の播種、定植作業（水菜、フリルレタス等）。※随時、本校ホームページのブログ、「職業コースだより」、「ひらかたキャリア通信」、学校協議会での情報発信を即時的に行い、「むげんファーム」にまつわる諸活動についての周知を行った。
成果の検証方法 と評価指標	<p>主な検証方法と評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育自己診断結果による学校満足度評価を70%以上にする。</li> <li>・その他の検証方法と評価指標</li> <li>・学校協議会等での外部からの評価</li> <li>・授業等での実践での現場職員等からの評価</li> </ul>
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価自己診断等による評価：本年度の学校教育自己診断の集計結果により、保護者による評価「学校は子どもの発達段階に応じて、自立と社会参加に向けた生きる力をつける教育（キャリア教育）を推進している。」について全校平均で91%の評価、「学校は特色ある教育活動に取り組んでいる。」について全校平均で83%の評価、また「学校は、情報をホームページやブログを通して知らせてくれている。」について、全校平均で86%の評価があった。(◎)</li> <li>・学校協議会等での外部からの評価：11月に実施した第2回学校協議会での成果報告では10月に実施した地域の朝市での販売について報告し、高い評価を委員全員よりいただいた。(◎)</li> <li>・授業等での実践での現場職員等からの評価：学校内で「むげんファーム」が認知され、活動が定着してきた。作業を通じ学部間の交流も盛んになり、地域販売では販売を通じ地域の方々との交流も行うことができた。(◎)</li> </ul>
次年度に向けて	<p>今年度は事業目標の最終段階、ステップ④まで達成することができた。地域の方々の受けとめも、大変好意的で、学校内の取り組みを知っていただき、交流を深める機会としても、今後も継続して取り組んでいきたい。次年度は年間複数回の地域販売を計画・実施したい。また、これまでの実績から、シーズンごとに適した作物を計画的に生産していく。</p> <p>また、校内の学部間での協働活動を促進し活性化させる。今後もブログや通信で情報発信を一層強化し、「むげんファーム」を枚方支援学校のキャリア教育について発信する場所として学校内外に向けて浸透を図る。</p>